

2015年度 事業報告

公益社団法人浦安青年会議所
2015年度理事長 金子 雅一

スローガン 「インパクト wiz passion ～光り輝く浦安の創造～」

【はじめに】

1981年8月2日の創立から、脈々と受け継がれてきた歴史と伝統のもと、浦安青年会議所は創立35周年を迎えました。また、本年は戦後70年、青年会議所運動がアメリカのセントルイスで誕生して100周年と節目の重なり合う1年でありました。今日の成果は過去の努力の結果であり、未来はこれからの努力で決まる。浦安青年会議所の存在感を思う存分、地域にアピールするという強い使命感のもと、理事長としての1年がスタートしました。昨年、金沢理事長のもと策定した『愛郷心溢れる人財が躍動する未来へとつながる浦安の創造』を基本ビジョンに掲げた5カ年運動方針のスタートの1年、58名の熱きメンバーに支えられ、OB諸先輩からの暖かい激励や、行政や友好団体のご協力のもと、2015年度の運動・事業を無事に終えることができましたことに、心からの感謝と御礼を申し上げます。

【メンバーが光り輝くことで会員拡大】

JCの事業・運動を商品と考えるのであれば、売り手である私たちが魅力的でなければ、どんなに良い事業や運動も魅力が半減してしまいます。『何を売るかではなく、誰が売るか』が大切という私の想いのもと、営業スキルに特化した研修事業・例会を展開しました。1月には、古川大司先輩をお招きし、スローガンにもある『情熱』について、3月には、元ソフトバンクトップセールスマンの御堂剛功氏から、『魅力』の伝え方を、6月には齊藤恵一氏と日高利美氏から、コミュニケーションや信頼関係の築き方を学びました。私たちは商品を買っているのではなく、ソリューションを提供しているという考えをメンバーで共有することで、私たちの運動・事業も本当に浦安に有益なソリューションか、しっかりと議論する土台を創り上げました。また、ここで学んだ営業感性を生かしながら、来年までに20名弱のメンバーが卒業するという危機感とともに、全員で会員拡大にも取り組みました。なかなか前半戦は会員拡大にも苦しみましたが、学んだスキルをペースに、入会オリエンテーションなどの手法も織り交ぜ、情熱をもって会員拡大に取り組み、13名の新しい同志を迎えることができました。

【人と地域をつなぐ就業体験】

2013年に浦安市の協働事業提案制度でスタートした就業体験も、3年目を迎え、浦安市からの委託事業での共催となりました。予算は縮小しながらも効果は高めるという思いで、新たな形を模索しながらの「人と地域をつなぐ就業体験」でしたが、35名の学生の参加のもと、成功裏に終えることができました。学生たちには例年のマナー研修ではなく、どういう人生を歩んでいきたいかという点に焦点をあて、アチーブメント株式会社から講師を迎え、将来の自分探しというテーマでの開校式からスタートし、学生たちの人生観に一石を投じました。市内企業での3週間に渡る就業体験、JCメンバーとの座談会や、実行委員会形式で学生自らが設営する閉校式などを通じて、学生の成長に大きく寄与する事業であったと思います。愛郷心を育むという観点から、浦安青年会議所が協働団体として尽力した浦安フェスティバルにも設営側として参加をしてもらいました。JCメンバーの関わり方、企業側へのメリットなどを議論することで、来年以降、さらにすばらしい事業に飛躍することを期待しています。

【子どもたちの夢へのサポーター】

子どもたちには、難しいことを論ずることよりも、ワクワクする体験を多く積み重ねるほうが大切です。逆に親に対しては、JCからのしっかりとしたメッセージを伝える必要があります。本年も、5月に「第27回わんぱく相撲浦安場所」を、306名のわんぱく力士の参加のもと開催しました。目標をもって、日々努力することの大切さを伝えたいと、親から子への表彰状という設えで表現しました。親御さんから得意げな子どもへ表彰状の贈呈はとても感動的でありましたし、この表彰状が机に飾られ、子どもたちの夢に向けての推進力になると確信しております。9月にはペップトークの伝道師である岩崎由純氏をお招きしての講演会と地引綱などの課外授業をセットにした『ドリームサポータープロジェクト』を開催しました。岩崎氏の講演会で一番身近なサポーターである親の意識を変革し、課外授業では、精一杯チャレンジする友だち同士を応援する子どもたちの姿に、心を奪われました。子どもたちは、たった1日親元を離れただけでしたが、自身に満ち溢れた表情で浦安に戻ってきたのを今でも鮮明に思い出します。今回のドリームサポータープロジェクトを経験した子どもたちは、これからも小さな成功体験を積み重ねて夢に向けて頑張ってくれるでしょう。また、講演会・課外事業ともJCメンバー自身も楽しんで参加していたのも、とても印象的で、嬉しかったです。

【創立35周年記念事業 in オーランド】

2月20日に318名のご臨席のもと、盛大かつ厳粛な35周年記念式典の開催後、すぐに準備に取り掛かり、創立35周年記念事業として「浦安横断わんぱくクイズ～オーランドへ行きたいか?!～」を開催いたしました。昨年人財開発プログラムの中で中村副市長の講話を聞く機会がありました。私自身、浦安で生まれ育ち、浦安のことは大体知っているつもりでしたが、聞いた事も無いようなお話をたくさん聞き、先人達の苦勞を知るとともに、一層浦安が好きになりました。この経験から、浦安の歴史や文化を学び、学ぶことで今まで知らなかった浦安を知り、知ることで浦安をさらに好きになってもらうことを目的に、クイズ形式で200名を超える参加者とともに、この事業を展開してまいりました。真夏の猛暑の中、浦安を横断しながら、元気一杯にクイズに答える姿や、負けて泣いてしまう子どもたち、親子で一緒に作ったクイズの問題集と、青年会議所の醍醐味を改めて実感する事業となりました。ファイナルステージでは、6名のファイナリストと一緒に、姉妹都市であるオーランドを訪問し、議場をお借りしての白熱の決勝戦を開催するとともに、浦安市からの親書をバディ・ダイヤー市長にお渡しするなど、壮大な事業となりました。JC運動発祥100周年のこの年に、発祥の地であるアメリカに35周年記念事業として訪問できたことに多くのご縁を感じ、無事に開催できたことにメンバーをはじめとする多くの方々に感謝を申し上げます。事業の内容とクイズに有識者のインタビューを加え、記念書籍として各学校に配布しました。周年事業として、何か形に残したいという私と委員会の願いも達成でき、継続的な運動にもつなげました。そして6名のファイナリストをはじめとする、浦安を市内外にPRする多くの伝道師がここに誕生しました。

【君たちの声を君たちの将来に】

4月には堀江中学校3年生の授業参観の場で、日本青年会議所のプログラムである「みらいく」を活用して『「私たちの選択が未来をつくる！」～うらやす模擬選挙～』を開催しました。堀江中学校の協力のもと、生徒166名、保護者70名のご参加を賜り、インパクトのある事業を展開することができました。3年後には投票に行く年代に対して、選挙権が18歳に引き下げられるこのタイミングで、民主主義教育の基本を知ってもらい、もっと地域やまちのことに関心をもってもらう必要がありました。授業参観ということもあり、中学生の親御さんに対しても、投票への必要性を訴えることができました。また、明海大学の学生にもボランティアとして参加してもらい、彼らの選挙に対しての意識も変わったと感じました。その後、校長会へ出席し、細田教育長とも面談し、市内小中学校すべてにシチズンシップ教育の出張授業をしたいという浦安青年会議所の気持ちを伝えましたが、年内に叶わなかったのがとても残念です。また、4月に行われた統一地方選挙においては、政策本位による政治選択を掲げ、「e-みらせん」についても、積極果敢に取り組みました。

【さいごに】

2015年、このように理事長として多くのことを経験させていただきました。また組織のトップとして、多くの決断に迫られました。JCでも企業経営でもベストでなくてもベターの決断をいち早くする重要性を学ぶとともに、変化と成長を繰り返しながら、個人と組織がイノベーションする必要性を強く感じました。若さ溢れる私たちの魅力は、なんといっても行動力です。二流の戦略でもいい、一流の実行力をもって、大好きな浦安のために運動を展開していきましょう。どんなに小さな一歩でもいい、失敗を恐れずにまずはその小さな一歩を踏み出しましょう。2016年度が、2015年度を超え、西川理事長のカ強いリーダーシップのもと、創立40周年に向けてのすばらしいスタートダッシュの1年となることをご祈念申し上げ、2015年度の事業報告とさせていただきます。1年間皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。